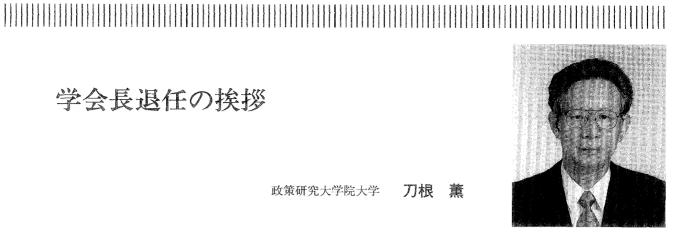
## 学会長退任の挨拶

政策研究大学院大学 刀根 董



早いもので会長を拝命してからもう2年が経ち ました。2年目が学会40周年に当たり本部ならび に各支部で記念行事を盛大に行ったことがイベン トとして印象に残っています。その折り、多くの 会員の方々と OR の現状について率直に語り合う ことができたことは私にとって貴重な経験でした。 80才台から20才台まで、実業界から学界まで、 OR学会はきわめて広いスペクトラムをもってい ます。しかし、このように多種多様な人々がOR という接点でつながり、たちまち旧知のような仲 間意識を持つようになるのがこの学会のよい特長 であります。40年前に、無から有を作るという困 難な仕事をなされ、組織の基盤を固め、全国的に 学会を統一された先駆者の方々の情熱と英知とご 努力には頭が下がるばかりです。また、各支部で ORマインドのある人々をさそって支部建設に当 たられた先覚者の方々のご努力と情熱に対しても 厚く感謝いたします。今回、近藤次郎先生を委員 長とする40周年記念事業委員会のご尽力で記念シ ンポジウム以外に、さまざまな記念事業が進行中 であり、またこれから始まります。若手研究者の 海外渡航旅費の補助、専門書の出版, OR 事典の 改訂。1999年に北京で開かれるIFORSへの援助、 海外のジャーナル (Omega) でのアジア太平洋 地域特集号の編集、40周年記念懸賞論文の募集と 表彰等です。その上、かねてから念願であったホ ームページの開設も具体化してきました。これら は学会の基盤の強化に役立つと信じています。こ ういった事業を可能にした記念事業関係者ご一同 に感謝するとともに、今後ともご協力の程よろし くお願いいたします。

さて、学会をめぐる環境は依然厳しいものがあ

ります。長期に及ぶ日本経済の低迷です。それは、 賛助会員(会社)の減少という形で学会の財政を 直撃しています。こういう時こそ OR が役立つと いうことを世の中に示さねばならないのですが。 残念ながらまだ学会にはそれだけの力がありませ ん。もともと実学として誕生した OR のはずです が、実業界と学界の連携はかつて程緊密ではあり ません。両者がもっと頻繁に接触する機会を作ら ねばなりません。実業界の抱えている問題を、学 界の方で受け止めて解決策を共同研究する機会を もっと作る必要があります。そして、その結果を 論文や報告書の形で表わすばかりでなく, user friendly なソフトとして提供することが重要です。 私はこれを Techno OR と呼びたいと思います。 教育ももっと Techno OR 中心であってよいので はないでしょうか、アメリカにおけるそのような ソフトの盛んな開発と成功例を見るにつけても, 我が国でももっとその面での貢献がなされること を期待します。

次期会長に就任される水野幸男氏は OR のパイ オニアであるばかりか、NECの今日を築き上げ た最大の功労者であります。現在の我々の学会に とって最適の会長といえます。我々は最適解を見 つけたのです。皆さん、新会長に協力して学会を 新しい成長の軌道に乗せようではありませんか。

最後に、この2年間暖かいご協力と励ましのお 言葉を頂いた多くの方々にこの欄をお借りして厚 く御礼申しあげます。